

2017.8.18 医学教育学会大会(札幌)

一週刊誌に掲載された 医学部入試に関する記事の分析

大滝純司¹⁾, 柴原真知子²⁾, 柿本明日香³⁾,
武富貴久子¹⁾, 渡邊洋子⁴⁾

1) 北海道大学医学研究院, 2) 京都大学医学研究科,
3) 京都大学教育学研究科, 4) 新潟大学創生学部

1

COI開示

「一週刊誌に掲載された医学部入試に関する記事の分析」

本発表に関して開示すべき利益相反はありません。

北海道大学 大滝純司

2

背景：入学者選抜の重要性

大学の教職員にとって最重要業務のひとつ

- ▶ 各大学の理念や特徴を選抜の方針の表現
- ▶ 入学後の教育に適応できる学力を持つ学生の選抜
- ▶ 卒業後の進路に対する学生の適性の検討
- ▶ 適正な入学者数の確保
- ▶ 志願者からの受験料収入

医学部の入学者選抜：医学のあゆみ 255(11), 1124-1129, 2015

3

背景：多くの課題と限界

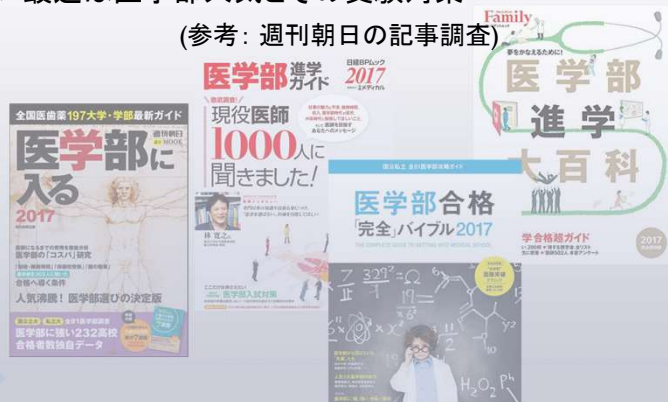
- ▶ 実態は可視化されにくい
 - ▶ 個人情報保護
 - ▶ 試験対策への影響の回避
 - ▶ 大学間の駆け引き
 - ▶ 不合格者との比較の難しさ
- ▶ 合否判定の実態
 - ▶ 「適否の判定」は極端な例以外は困難
 - ▶ 「順位付け」をして「定員で切る」作業になりがち
- ▶ 入学後の経過
 - ▶ 脱落や進路変更への非寛容

4

背景：マスコミによる医学部入試関連の話題

- ▶ 以前は「寄付金」や「裏口入学」
- ▶ 最近では医学部人気とその受験対策

(参考：週刊朝日の記事調査)



5

背景：語られにくい問題

少子化＋医学部受験者数の増加

＝医学部志望者割合の大幅増加

- ▶ 受験産業の医学部受験への重点化
- ▶ 合格者の選民意識や権利意識の高まり
- ▶ 大量の不合格者の挫折感と

他学部への不本意進学

参考：日本経済新聞2015年8月6日記事「定員割れの私大が微減 なお4割、地方で目立つ」
私立大学医学部に入ろう！ドットコム「私立大学医学部 入学試験動向」など

6

医学部入試の妥当性に関する総合研究

教育格差

- ▶ 経済的、地理的環境の影響
 - ▶ 高校の進路指導担当教員に質問紙調査

選考方法

- ▶ 受験学力測定の影響
 - ▶ 特殊な受験対策の調査
 - ▶ 測定する能力と選考目的の整合性の検討
 - ▶ 選考方法の妥当性を高める方策の検討

入学後の課題

- ▶ 受験の学習から教養/専門教育への移行
 - ▶ 躰きの実態の調査
 - ▶ 初年時教育の重要性と具体例の呈示

文科省科研費：24390133(2012～15年度)、16H05208(2016～19年度)

7

国際シンポジウム 「医学部入試の課題と改革」



2013.10.26 国際シンポジウム「医学部入試の課題と改革」

8

目的

- ▶ 医学部入試の妥当性を多角的に検討する一環として
医学部入試に関するメディアの動向を検討
- ▶ 研究課題 Research question
 - (1)メディアの大学入試に関する記事における
医学部入試の占める割合は変化しているか？
 - (2)メディアの医学部入試に関する記事の内容は
変化しているか？

9

方法

- ▶ デザイン: 週刊誌記事のretrospective analysis
- ▶ 理論的枠組み: マスメディアの議題設定機能仮説
- ▶ 対象: 大手週刊誌S誌に1995～2016年に掲載された
大学入試に関する記事
- ▶ 分析手順:
 - ▶ K市立図書館所蔵のバックナンバーを閲覧
 - ▶ 手作業で医学部入試に関する記事を抽出
 - ▶ 時系列的に集計
 - ▶ 記事の内容を分類

10

抽出した記事データの集計(部分)

| 号数 | ページ | タイトル | 内容 | 医学部関連記事の有無 | 医学部データ ※医学部での記載があれば(医) |
|-----------|---------|-----------------------|--|--------------|---|
| 1995年1月1日 | 106-109 | 95年入試速報 | 新設大学・学部・学科の履修値 | なし | |
| 2月5日 | 141-59 | オンライン科目履修データ集掲載 | | なし | 全国公立大(医) |
| 2月12日 | 139-7 | 私立大受験地図 | 出願状況と分析(震災と志願者減傾向) | なし | 慶応・東海大・日大、近大(医) |
| 2月18日 | 167-189 | 高校別大学合格者速報 | | なし | 帝京医科大 |
| 2月25日 | 65-69 | 高校別大学合格者速報 | | なし | |
| | 156-182 | | | なし | |
| 3月5日 | 167-74 | 高校別大学合格者速報 | | なし | 聖非薬科大・聖マリアンヌ医科大 |
| | 150-165 | | | なし | 市立医科大・武蔵医科大 |
| 3月12日 | 165-75 | 高校別大学合格者速報 | | なし | 自治医科大・東京女子医大・徳島医科大など |
| | 151-163 | | | なし | 北里大・埼玉大・東海大など |
| 3月19日 | 79-128 | 高校別大学合格者ランキング(私立大総集編) | 95年入試分析(私立大総集化・医療系志願者増) | △(医学部のみではない) | 岩手医科大、岩手医科大など |
| | 193-202 | | | なし | 日大(医)p195、関西医科大、久留米医科大など |
| 3月26日 | 35-68 | 高校別大学合格者速報(国公立) | 東大・京大・主要国立大(前期) | なし | 東大理Ⅲp38、京大(医)p52、阪大(医)p63、 旭川医科大、自治医科大、京畿医科大 |
| | 192-234 | | 東大・京大・阪大の合格者全氏名 | なし | 神大(医)p208、大阪医科大、京府府立医科大、 富山医科大、和歌山県立医科大 |
| 4月2日 | 122-151 | 高校別大学合格者ランキング | 国公立+私大 | なし | 東北大(医)p123、名大(医)p134、札幌医科大、 日本、慶応など |
| 4月9日 | 43-70 | 高校別大学合格者速報 | 東大・京大・主要国立大(後期) | なし | 東大理Ⅲp46、京大(医)p51 ※後期は人数のみで学部詳細なし |
| | 191-226 | | 国公立+私大 | なし | 旭川医科大、和歌山医科大、福島県立医科大 |
| 4月18日 | 128-141 | 全国有名高校400校の主要大学合格者数 | | なし | |
| 4月23日 | 172-189 | 全国有名高校138校の主要大学合格者数 | | なし | |
| 4月28日 | 171-172 | 95年入試のふりかへし、志願者の動向 | | なし | |
| 4月30日 | 98-111 | 全国主要410私立高校の大学別合格者数 | | なし | |
| 5月12日 | 112-113 | 私立高校v公立高校 | 東大京大に合格するに「ほどさら?」(私立高優位の現状) | なし | |
| 9月28日 | 109-110 | 99年最新入試情報 | 私立大入り校となる | なし | |
| 10月1日 | 77-7 | 99年最新入試情報 | 実学志向で理系出願増、95年私大学部系統別入試結果 | なし | ※記事では触れていないが、医学部のみ出願人数、合格者、前年比データ記載あり |
| 10月22日 | 76-86 | 99年最新入試情報 | 別枠入試増大(私大センター利用入試一覽) | なし | 推薦枠基準で医学部記載あり(例:詳高4以上兵庫医科大(医)、SUI+京大(医)など) |
| 11月12日 | 93-102 | 主要250大800学部の偏差値(理系) | 「実学志向」の傾向 | なし | |
| | 102-103 | | | なし | ※医療系での偏差値一覽あり |
| 12月10日 | 93-97 | 全国130大 医療系志願者の偏差値一覽 | 分析「医師過剰時代で医学部受験に曲がり角?」 「地方医学系専科大の人気」、要領の厳格化、休みなし等の状況記載+「今後の医師は使命感の必要」 | あり | 各校の学部別データ(医学部)あり |

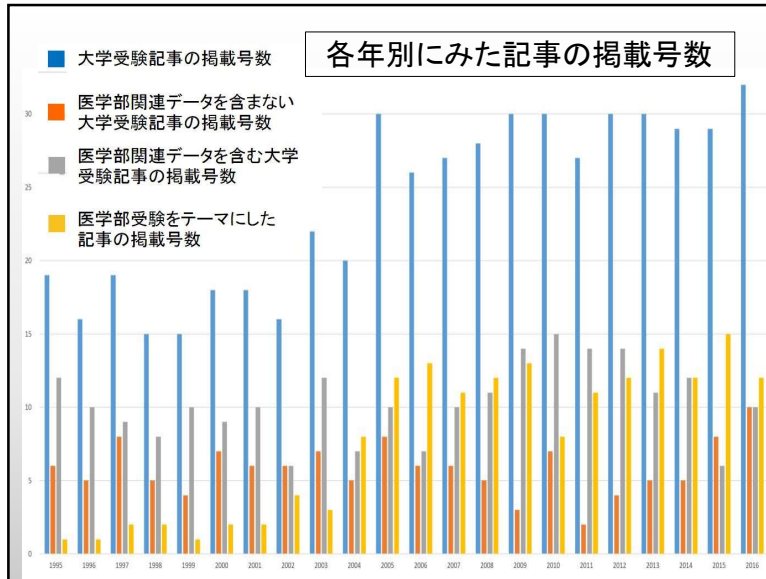
11

結果

- ▶ 大学入試に関する記事: 526('95～'16年)
 - ▶ 一部に医学部関連情報を含む記事: 227
 - ▶ 医学部関連の情報を含まない記事: 128
 - ▶ 医学部入試が主なテーマの記事: 171(同上)
 - ▶ 1995年～2003年: 1～4/年
 - ▶ 2004年～2016年: 8～15/年

母集団(大学入試に関する記事)に占める割合: 優位に増加(0.1139～0.4158, P<0.05)

12



13

結果

- ▶ 医学部入試が主なテーマの記事の内容
 - ▶ 医学部入試の大学別難易度
 - ▶ 医学部志望の動向
 - ▶ 学費や地域枠の影響
 - ▶ 医学部入試の高校別合格者数
 - 2003年まで
 - : 東大理3や京大医学部など一部に限定
 - 2004年以降
 - : 全国公立大と一部私立大の情報
 - 「高校別ランキング」などを毎年掲載

14

考察

- ▶ 入試関連記事に占める医学部入試の割合は増加
- ▶ 2004年以降は特集が組まれるように
- ▶ 「有名進学校」など出身高校別の合格者数に注目
- ▶ 選抜方法の妥当性に関する記事は少ない

15

考察

- ▶ マスメディアの論点はどのようにして決まるのか
 - ▶ 視聴者や読者が興味を持ちやすいことを採用？
- ▶ 従来のメディア効果論
 - ▶ マスメディアへの接触を独立変数
 - ▶ 人々の態度や認知を従属変数とするフレームワーク
- ▶ メディアの最小効果論
 - ▶ 先有態度や選好に基づいた選択的接触が強く
 - ▶ メディア接触は意見や態度によって選び取られる従属変数？
- ▶ 先有態度と一致する情報ばかりに接触
 - ▶ 態度変化のきっかけは失われる？

引用: 「マスメディアが世論形成に果たす役割とその揺らぎ」
放送メディア研究 No.13 2016 105-128

16

考察

- ▶ 医学教育関係者として
 - ▶ 医学部入試に関する情報の発信を
 - ▶ 注目されにくい重要な論点について
- ▶ たとえば
 - ▶ 医学部入試に関する妥当性の議論
 - ▶ 医学部入試が過熱することの弊害

17

まとめ

- ▶ 医学部入試に関するメディアの情報の一端を分析
- ▶ 医学部入試の記事は2004年以降増加
- ▶ 選抜方法の妥当性に関する記事は少ない
- ▶ 医学教育関係者としての建設的な発信を

18

- ▶ 以降のスライドは質疑応答用

19

背景：私立大学医学部志願者数増加の理由

- ▶ 先行き不透明な経済事情
 - ← 職業として安定する医師という選択肢
- ▶ 新設医学部を卒業した医師の子弟が受験期
- ▶ 受験方式の多様化
- ▶ 学費の減額と奨学金制度の充実

出典：私立大学医学部に入ろう！ドットコム「私立大学医学部 入学試験動向」
<http://www.sidaigakubu.com/trend/>

20

国際認証評価での基準(1)

基本的水準

医科大学・医学部は

- ▶ 学生の選抜プロセスについて、明確な記載を含め、客観性の原則に基づき入学方針を策定して履行
- ▶ 身体に不自由がある学生の入学について方針を定めて対応
- ▶ 他の学部や機関から転入した学生については、方針を定めて対応

注)基本的水準:

全ての医科大学・医学部が達成していなくてはならない

医学教育分野別評価基準日本版 WFME)グローバルスタンダード2012年版準拠Ver.1.30

21

国際認証評価での基準(2)

質的向上のための水準

医科大学・医学部は

- ▶ 選抜プロセスと、医科大学・医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力との関係性
- ▶ 地域や社会の健康上の要請に対応するように、社会的および専門的情報に基づき、定期的に入学风針をチェック
- ▶ 入学許可の決定への疑義に対応するシステムを採用

注)質的向上のための水準:

一部または全てについて達成度や見通しについて示すべき

医学教育分野別評価基準日本版 WFME)グローバルスタンダード2012年版準拠Ver.1.30

22

選抜方法の特性を検討する観点 (2)

実現可能性 Feasibility

- ▶ 限られた時間や経費や人員で実際の選抜を実施できるか

容認可能性 Acceptability

- ▶ 志願者を含む関係者や一般社会が選抜方法を納得できるか

A Practical Guide for Medical Teachers (3rd ed.) pp 371-377, 2009

23

容認可能性

日本の大学入試

- ▶ 各大学が作成した(独自の傾向を持つ)ペーパーテストで大勢の受験生が同時に同じ問題に解答



その点数で合否を判定するという方法の明快さ

「一発勝負の公平性」として尊重する意見も

しかし妥当性や信頼性の検証は外部からは困難



24

プログラムの概要

- ▶ 世界の医学部入試の状況と国際的な課題
クラレンス・クライター アイオワ大
- ▶ 日本の医学部入試の現状と課題
大滝純司 北海道大学
- ▶ 格差社会における医学部入試—ロンドン大キングス・カレッジの試み
武田裕子 ハーバード大ベスイスラエル・ディーコネス病院
- ▶ 英国全体とロンドン大セントジョージ校の医学部入試の状況
ピーター・マクロリー ロンドン大学セントジョージ校
- ▶ 台湾における医学生選抜の概略
ライ・チー・ワン 台湾医学認証評価協会会長
- ▶ マギル大学(カナダ)の医学生選抜, その新手法
ジョイス・ピカリング マギル大学医学部

▶ 2013.10.26 国際シンポジウム「医学部入試の課題と改革」

25

世界の医学部入試の状況と国際的な課題 クラレンス・クライター教授 アイオワ大

医学部入試を国際的な視野で概説

- ▶ 医学部入試の方法や入学志願者の層は多様
- ▶ その妥当性に関する論点はほぼ同様
- ▶ 一般的知能以外の測定は妥当性に関する根拠が不十分
- ▶ メタ分析により一般化可能で国際的に通用する知見
- ▶ 知的能力に優れた志願者を選び出すことを重視
- ▶ 入試が目的に適っていることを測定できていない
- ▶ 学業成績より適正試験を重視⇒教育歴や社会背景による差を狭められる
- ▶ すべての入試は一般的知能に相関
- ▶ 一般的知能は専門職アウトカムの予測につながるだろう

▶ 2013.10.26 国際シンポジウム「医学部入試の課題と改革」

26

Teaching and Learning in Medicine 27(2), 197-200
Copyright © 2015, Taylor & Francis Group, LLC
ISSN: 1040-1334 print / 1572-4015 online
DOI: 10.1080/10401334.2015.1020269



OBSERVATIONS

Constructing a More Comprehensive Validity Argument for Medical School Admission Testing: Predicting Long-Term Outcomes

Clarence D. Kreiter

Department of Family Medicine, University of Iowa Carver College of Medicine, Iowa City, Iowa, USA

Junji Otaki

Center for Medical Education, Graduate School of Medicine, Hokkaido University, Sapporo, Hokkaido, Japan

Issue: The research published outside of medical education journals provides an important source of validity evidence for using cognitive ability testing in medical school admissions. **Evidence:** The cumulative body of validity research, consisting of thousands of studies and scores of meta-analyses, has conclusively demonstrated that a strong positive relationship exists between job performance and general mental ability. **Implications:** Recommendations for reducing the emphasis on or eliminating the role of general mental ability in the selection process for medical schools are not based on a consideration of the wider research evidence. Admission interventions that substantially reduce the level of academic aptitude are also likely to result in reduced professional performance.

Keywords: MCAT, validity, admissions

journals, the meta-analytic insights discussed here are possible only through a cross-disciplinary survey of the validity evidence.

BACKGROUND

In the United States, there have been many calls to reduce the emphasis on admission test scores and cognitive ability measures used during the selection process. Perhaps the most public of these calls took place when Dr. Jordan Cohen, then president of the Association of American Medical Colleges (AAMC), suggested that medical schools use Medical College Admission Test (MCAT) scores only as a lower threshold for eliminating high-risk applicants.¹ To achieve this, he recom-

▶ Teaching and Learning in Medicine 27(2):197-200

27

格差社会における医学部入試 —ロンドン大キングス・カレッジの試み— 武田裕子 ハーバード大

健康の社会決定要因(Social determinants of health)

- ▶ 医療の偏在、貧困、失業、教育機会の喪失⇒健康格差
- ▶ 医学生の多くは社会的困窮や格差を実感する機会少ない
- 英国の医学部
 - ▶ 一部の集団は**医学部入学に不利**: 教育機会均等の問題
 - ▶ 英国は先進国の中でも所得格差大で**階層間の移動乏しい**
- キングス・カレッジ医学部
 - ▶ 不利な状況の高校生に**医学部入学の拡大枠**
 - ▶ 医学部5年間の最初の2年間に3年かける
- 不況とグローバル経済
 - ▶ 所得格差⇒健康格差⇒教育格差
 - ▶ 社会経済的弱者の子供たちに顕著: **日本も例外ではない**

▶ 2013.10.26 国際シンポジウム「医学部入試の課題と改革」

28

マギル大学(カナダ)の医学生選抜, その新手法 ジョイス・ピカリング マギル大学医学部

過去の入試と問題点

- ▶ 知識面の能力: GPAとMCAT (Med. College Adm. Test)
 - ▶ 基礎医学領域の成績に相関するが、臨床医学との相関はない
- ▶ 知識面以外の能力: 志望理由の手紙、推薦状、面接

Multiple mini interviews (MMIs)の開発と導入

- ▶ 知識面以外の能力を診る: McMaster大を参考に
 - ▶ 例: 障害者の指導 / 急な荷造り / 母の違法行為へ対応

MMIを入試に導入した結果

- ▶ M1-M4の成績との相関: **GPA + MMIs > GPA 単独**
 - ▶ M1, M2, M1-M4の成績: 入学前4年間の GPAと正相関
 - ▶ **M3クリクラ**: GPAと無相関 / 面接と負相関 / **MMIsと正相関**
- ▶ 従来の面接試験を止めMMIs単独に
 - ▶ 面接は意味が無いか逆効果 ⇔ **MMIsは臨床能力を予測**

▶ 2013.10.26 国際シンポジウム「医学部入試の課題と改革」

29

日本の医学部入試の現状と課題 大滝純司 北海道大学

現状の確認

- ▶ 医学部入試の学力試験では**受験学力を測定**
- ▶ 受験学力のみの入学者選抜には改善勧告
- ▶ 面接や活動歴などを重視する評価や推薦入試が導入
- ▶ 入学後脱落しないためには相当の学力が必要
- ▶ **受験学力が日本の医学部入試の尺度の中心**
- ▶ 高度な受験学力を測定することの妥当性
 - ▶ 「地域枠」が政策的に導入
 - ▶ 入試合格者に一律の受験学力を求めることは妥当か

教育格差の影響

- ▶ 裕福な家庭の出身者
- ▶ 進学校の多い都会の出身者 が医学部入学に有利に

▶ 2013.10.26 国際シンポジウム「医学部入試の課題と改革」

30

背景：教育格差と医学部受験(日本)

塾や進学校に通えなければ医学部受験は困難？

参考: 高校生の保護者対象の調査

- 国公立大への自宅通学でも医歯薬系志望は所得階層による差
- 進路指導教員対象の調査
- 医学部進学には裕福な家庭や都会出身者が有利

- ▶ 地域枠等による医師養成数増加による質低下への懸念
- ▶ 医学部進学を早期にあきらめる家庭が増えている可能性

医学部入試で測定すべき能力は何か
受験学力の偏重が母集団の縮小を招いていないか

▶ 進学格差－深刻化する教育費負担, pp 67-92, 筑摩書房, 東京, 2008

31

20130516 朝日新聞 所得と国立大進学率

国立大進学 所得が影響
年収400万円以下7% 1000万円以上20%

東大研究者ら調査

公立大への進学率が比較的高い。調査対象は、公立大の受験生約5万人。所得階層は、年収400万円以下、400万円超、1000万円超の3段階。所得階層別の進学率は、年収400万円以下が7.1%、400万円超が11.1%、1000万円超が20.1%だった。所得階層別の進学率の差は、年収400万円以下と1000万円超では2.3倍、400万円超と1000万円超では1.8倍だった。

調査は、東大の研究者らが行った。調査対象は、東大の受験生約5万人。所得階層は、年収400万円以下、400万円超、1000万円超の3段階。所得階層別の進学率は、年収400万円以下が7.1%、400万円超が11.1%、1000万円超が20.1%だった。所得階層別の進学率の差は、年収400万円以下と1000万円超では2.3倍、400万円超と1000万円超では1.8倍だった。

32